

Business Gallery

第342回

(有) 湯山設備工業所

—— 新分野にも果敢にチャレンジ！



代表取締役 酒寄 幹弘 社長

「新しい技術を取り入れて、今までとは違う分野にも力を入れていかないと」。こう語るのは、川越市に本社を置く(有)湯山設備工業所の代表取締役、酒寄幹弘社長。関係会社を複数有し、グループ全体で取り扱い分野と業容の拡大を目指している。

(有)湯山設備工業所は1969年(昭和44年)5月の設立。今年が法人化50年の節目の年に当たる。社名のとおり設備工事を主業とする会社で、マンションや工場といった大型物件から、戸建て住宅の設備工事まで請け負い、宅地造成に関わる管工事なども手がけている。当社の特徴のひとつが、チーム編成による施工体制。協力会社のスタッフも含め1現場に何チームかを編成し、互いに競わせるシステムを採用している。品質やスピードなど、競争することで全体のレベルアップが進み、チームワークがよくなって人間関係や作業環境の改善にもつながるといふ。

当社ではここ数年、分社化を進め役割分担を行ってきた。まず、(株)ヤマト。2011年10月の設立で、当初は建築資材や配管材料の販売を行っていたが、請け負いも徐々に実績を重ね、近年ではようやく公共工事入札にも参加するようになった。今やグループ内では施工の実働部隊となっている。次に、(株)アース。2015年11月設立で、こちらは舗装を中心に土木工事を手がけ、ブロックや造成工事なども請け負う。さらに(株)STF。2015年5月に設立、設備のメンテナンス部門を担当し、24時間制で問い合わせに対応している。

こうしたなか、近年新たな分野として力を入れ始めているのが、橋梁工事におけるジョイント部分の施工。高速道路上の大きな橋を走行している

と、道路(舗装)と道路の継ぎ目で車が「ガタン」となる経験を持つ運転者は多いだろう。この継ぎ目、これまでは鉄製の材料でつないでいるケースが多かったが、雨水が染みこむことで橋台に影響が及ぶことが問題となっていた。これを解消する目的で開発されたのが「MMジョイント®」と呼ばれる、橋梁用埋設型伸縮装置だ。伸縮する舗装材のようなもので、耐久性と防水機能を両立した資材として、国内でも徐々に採用実績が高まっている。当社は「日本MMジョイント協会」という組織に加入し、今後の施工実績を重ねるべく、現在着々と準備を進めているところだ。

「これまで九州のほか、北海道や東北でこの工法が採用されてきました。最近関東にも出てきたので、どんどん取り込んでいきたい」(社長)と意気込む。

「東京五輪後を考えると、建設業界も仕事が減っていくかもしれない。生き残りのためにも、新分野に注力していく」(社長)とし、主力の設備工事に加え、このMMジョイント®の方も売り上げの柱に据えていきたい構えだ。

企業概要

(有) 湯山設備工業所

企業コード：270604101

法人番号：5030002075520

所在地：川越市中台元町1-5-15

代表：酒寄 幹弘氏

設立：1969年(昭和44年)5月

年売上高：約8億5600万円(2019年4月期見込み)

URL：<http://www.maroon.dti.ne.jp/yuyama/>